関口川の洪水浸水想定区域図の指定・公表について

（１）概要

近年、全国的に局地的な豪雨などが頻発しており、堤防等の施設の能力を超える大規模な氾濫の発生など水害の激甚化が危惧されています。このようなことを踏まえ、平成27年5月に改正された水防法に基づき、想定最大規模降雨を対象とした関口川の洪水浸水想定区域図（1年間に発生する確率が1/1000以下の雨で浸水する範囲及び水深を示した図面）、家屋倒壊等氾濫想定区域（河川が氾濫した場合や河川の増水により河岸が侵食された場合などに家屋の倒壊の危険性がある範囲を示した図面）、洪水浸水継続時間（水深50cm以上の浸水が続く時間を示した図面）を公表することになりました。（※各図面の説明は（３）図面の見方についてを参照）

（２）大雨の条件

想定最大規模	計画規模（参考）
1年間に発生する確率が1/1000以下の雨	30年に1回程度の雨
24時間で747mmの雨が降った場合	1時間に55mmの雨が降った場合

出典：気象庁ホームページ「雨の強さと降り方」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/yougo_hp/amehyo.html

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内（木造住宅を想定）	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感ずる				

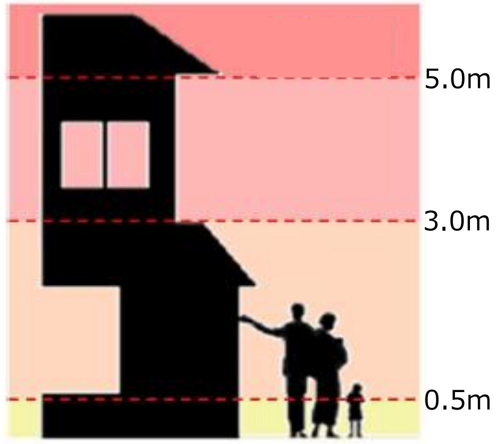
（３）図面の見方について

①洪水浸水想定区域図

洪水浸水想定区域図は、想定した大雨が降った時に浸水するおそれのある区域の浸水深（浸水する深さ）を示しています。

一般的な家屋の１階床高に相当する0.5m 、 2階床下に相当する3m、2階が水没する5mに加え、これを上回る浸水深を10m、20mで表現しています。この区域にお住いの方は2階以上へ避難するか、または浸水しない場所に避難するのかを検討する必要があります（※雨の降り方、高潮、内水氾濫などにより区域が広がる可能性があります。）

浸水深	色
20m ～	
10m ～ 20m	
5m ～ 10m	
3m ～ 5m	
0.5m ～ 3m	
～ 0.5m	



②家屋倒壊等氾濫危険区域

家屋倒壊等氾濫危険区域は、以下の２つの図面に分けられています。

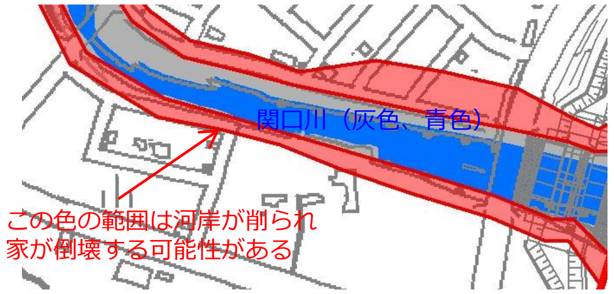
①河岸侵食によるもの：河川の流れが激しいと河岸が削られ、家が倒壊する可能性がある地域

②氾濫流によるもの：河川が氾濫した際に、一気に水が押し寄せることによって家が耐えられず倒壊する可能性がある地域

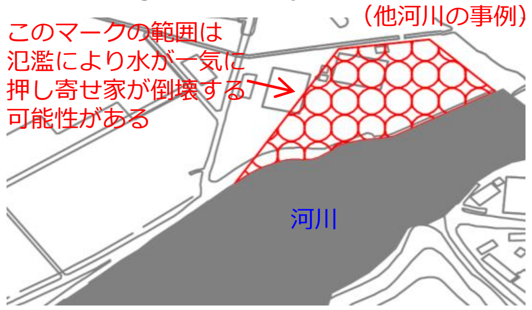
これらの区域にお住まいの方は、2階以上へ避難するのでなく、より安全な場所への避難を検討する必要があります。（※雨の降り方、高潮、内水氾濫などにより区域が広がる可能性があります。）

なお、関口川では氾濫流による危険区域は発生しませんでした。

出典：金沢市ホームページ「避難行動の基準、避難の心得」
https://www4.city.kanazawa.lg.jp/s/29220/suigai/hinan/kijun.html



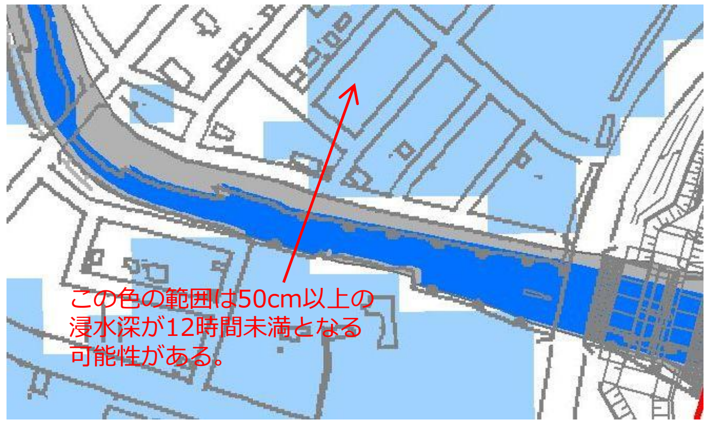
①河岸侵食によるもの



②氾濫流によるもの（他河川の事例）

③洪水浸水継続時間

河川が氾濫した場合、徐々に浸水した後、排水作業などにより水深が低下していきます。 浸水継続時間の図面は、浸水深が50cmを超えてから50㎝を下回るまでの時間を示したものとなります。

浸水継続時間が長い地域では、生活や企業活動の再開等に支障が出る恐れがあります。 （※雨の降り方、高潮、内水氾濫などにより区域が広がったり、時間が延びたりする可能性があります。）

継続時間	色
12時間	
24時間（1日間）	
72時間（3日間）	
168時間（1週間）	
336時間（2週間）	
672時間（4週間）